

第1位

SHUNTA NAGAYA

表影インタビュは
46ページへ!



長屋 竣大 (浜松開誠館)

「制球力が素晴らしい。衝撃的なボールだった。(知徳・初鹿文彦監督) / 「コントロールが良く、両サイドに決まってきた。(駿河綿合・望月俊治監督) / 「スピードについていけず、手も足もでなかった。(鳥田工・中村匠監督) / 「クレーバーを投手でつづけるスギがなかった。(掛川東・世古雄馬監督) / 「スピードがあり、打てなかった。(綾井・荒浪和彦監督) / 「彼のテンポで投げられてしまった。躍動感があった。(錦田西・山口遼太監督) / 「生きたストリートだった。(錦田東・山内克之前監督) / 「さすが決勝まで勝ち上がったピッチャーだった。(聖隷クリストファー・上村敏正監督) / 「下級生のときから良くなると感じていた。(オイスカ・永井浩二監督)

BEST PLAYERS 2020 SUMMER

第3位

SHOICHI FUTAMATA



二俣 翔一 (磐田東)

「攻撃的なキャッチャーで将来が楽しみ。(静清・長田仁幸監督) / 「野球をやっている雰囲気は素晴らしい。まさに野球小僧だった。(小笠・増田有希監督) / 「センスの塊。野球をやっている頭つきも良かった。(常葉大菊川・石岡諒哉監督) / 「キャッチャー前の送りバントを態勢を崩しながらアウにされた。叱咤の判断力が優れていた。(掛川西・大石卓哉監督) / 「掛西で送りバントを封じたプレーが素晴らしい。(浜松日体・杉田享監督)

BEST PLAYERS 2020 SUMMER

第2位



高田 琢登 (静岡商)

「前年の秋から成長を感じた。状態が悪い中でよく仕上げてきたと思う。(御殿場西・森下知幸監督) / 「高田君中心の大会だったと思う。対戦したいと思わせるピッチャーだった。(沼津商・大久保匡人監督) / 「プレッシャーのある中で頑張っていた。(富士・久保田達也監督) / 「モノが違っていた。高校生のレベルでは打てない。(富士宮北・堀川光史監督) / 「静岡の高校生の意識を変えた投手だった。(静岡大成・横山力監督) / 「高校生では見たことのないボールだった。(焼津中央・久保敦広監督) / 「プレッシャーを乗り越えていいピッチングだった。(鳥田・小林大監督) / 「マウンド上で見せる凛々しい表情が好きだった。味方も相手も敬いながら夏を戦っているように感じられた。(浜名・横山崇監督)」

BEST PLAYERS 2020 SUMMER

監督が選ぶ ベストプレイヤー 2020夏 TOP10

新型コロナウイルスの影響で甲子園が中止となった2020年。県独自の「夏季静岡県高等学校野球大会」が開催され、聖隷クリストファーの優勝で幕を閉じた。忘れられない夏に輝いた球児たち。監督の視点からベストプレイヤーを選んだ!

多くの監督から名前が挙がったのが、高田琢登 (静岡商) と長屋竣大 (浜松開誠館) の2人だった。僅差で1位に輝いたのが長屋。準々決勝までの5試合で23回3分の1を投げて無失点。ダブルヘッダーとなった準決勝と決勝戦もマウンドに上がり、エースとしての意地を見せた。2位の高田も大会ナンバーワン左腕として得票数を集めた。準々決勝のライバル・静岡戦との試合は2失点完投。「静岡の宝」が高校生活最後にベストピッチングを披露した。高田と同様にプロが注目した強肩捕手・二俣翔一 (磐田東) は3位にランクイン。スカウトが見守る中でポテン

シャルの高さを発揮した。4位の森祐二郎 (駿河総合) は初戦で先頭から9者連続三振をマーク。準々決勝の清水東戦では1打打封し、チームをベスト4に導いた。5位からは優勝した聖隷クリストファーの選手が並んだ。山口颯太は主将を務め、上村敏正監督の「頭とハートを使う野球」を実践。チーム一つにまとめた。6位の城西裕太は粘り強い投球が印象的。拏群の制球力を武器

に、走者を出しながらも得点を与えなかった。7位の大西琉也は城西を巧みにリード。打つても4回戦で勝ち越しタイムリー三塁打を放った。8位の望月大星 (静岡市立) は休校期間中に腕を下げたことで球のキレが向上。東海大静岡翔洋戦で好投した。9位の渡邊優心 (常葉大菊川) は投打で活躍。10位の肥沼竣 (加藤学園) は初戦敗退もひたむきに投げる姿が高く評価された。